

社会福祉協議会がお届けする“かにえの福祉”

笑顔

2018年7月号

No.146



(写真)「くりやあらんどー! (これはちがうよ)」(沖縄方言のカルタ・かにまるカフェ・はるすの湯)

P.2 特集 地域ささえあい情報室

P.4 長寿会単位クラブ活動紹介

P.5 知っ得! 介護・障がいトピックス

P.6 社協のこれからとこれまで

P.8 ほっとたより

P.11 夏休みボランティア福祉体験参加者募集

P.12 かにまる通信

クイズにお答えいただいた
方の中から抽選で
図書カード(1,000円)を
1名様にプレゼント!!

地域の宝物

地域の「宝物」とは

「宝物」と聞いて皆さまは何を想像するでしょうか。神社の奥に収められた歴史的な遺物でしょうか？それとも海賊や冒険家が隠した財宝でしょうか？きっと色々な宝物があることでしょう。

地域づくりの分野や生活支援の中でも「地域の宝物」と呼ばれるものがあります。「地域の宝物」は、その地域に暮らしている人々の何気ない生活の中に埋まっています。例えば、隣近所と挨拶を交わしたり、軽い立ち話をしたり、近隣の知り合いや友人とのお茶のみや趣味のサークルなどの中に「宝物」はあります。



「宝物」は日常生活にあり

一見、これらは日常の中の当たり前の営みで、「こんな普段やっていることの何が宝物なのか？」と思えるかもしれません。しかし、視点をすこし変えてみると、隣近所との挨拶や立ち話はゆるやかな見守り・見守られになっていますし、お茶のみや趣味の集まり等は生活の情報交換や生きがいづくりにもつながっています。つまり、こうした普段の何気ない営みが、住民同士の自然な支え合いになっているわけです。



「宝物」は見つけにくい

こうした日常の中の自然な支え合いが「宝物」と呼ばれるのは、それ自体が大切なことであるということに加え、もう一つ理由があります。それは表面化しにくく、外部からは非常に発見しにくいということです。

私たちは普段、他の人がどうやって生活しているか、どこに出かけて誰と会っているかなど、逐一詳細を知ろうとはしません。特に現代ではプライバシーの問題もあり、こうした他人の生活を細かく知ろうとすることは敬遠されます。さらに、自分自身も日常の中で当たり前に行っている行動を、とりたてて意識することはありません。とりたてて意識しないようなことを外に向けて発信する人もいません。このため、日常生活の中に埋め込まれた自然な支え合いは、非常に表面化しにくく、見つけにくいものになっています。この日常の中の自然な支え合いの見つけにくさが「宝物」と呼ばれるもう一つの理由です。



「宝物」の価値

日常の中の自然な支え合い、つまり「宝物」は、人々が住んでいる所には必ず存在しています。この「宝物」を発見することによって、自分の生活する地域には無いと思っていた支え合いの活動や様々な集まりが存在することに気づき、自分の生活する地域に誇りを持てるようになります。そして、その気持ちが地域に参加し、より支え合いの輪を広げ、地域を創っていく原動力へとつながっていきます。



生活支援コーディネーターが地域の活動をサポートします！

「地域でみんなが気軽に集える場所を作りたいけれど、どうすればいいんだろう…。」

「生活の中で困ることがあるけれど、どこに相談すればいいんだろう…。」

「地域の支え合い活動に参加したいけれど、何をすればいいのかな…?」

こうした悩みをお抱えの方は、ぜひ生活支援コーディネーターにご相談ください。

生活支援コーディネーターとは、地域で暮らすみなさまが安心して生活できるように地域の支え合い活動をサポートする専門職です。地域の「宝物」の発見、お住まいの方々の困りごとの把握を支援し、必要なサービスの開発や支え合い活動の担い手への連絡・養成を行います。みなさまが住み慣れたところで末永く暮らせるように地域生活をサポートします。地域のことでお困りの際はお気軽に社会福祉協議会の生活支援コーディネーターまでご連絡ください。



「宝物探し」の取り組み

蟹江町でもすでに、様々な地域で「宝物探し」が始まっています。その取り組み事例を見ていきましょう。

地域勉強会（新蟹江学区）

新蟹江学区では民生委員の方々を中心として「現在の地域にあるもの・現在の地域にある取り組み」と「将来の地域に必要なもの・将来の地域に必要な取り組み」を考え、その将来像にたどり着くためにはどうすれば良いのかを話し合いました。話し合いを通して「地元の人と新しく入ってきた人たちとの交流がない」といったことに気づき、交流の場づくりや色々な人が話し合いを行う機会を設置することが意識化されました。



ワークショップ開催（各中学校区域）

蟹江町の二つの中学校区（蟹江中学校区、蟹江北中学校区）それぞれでワークショップを開催しました。ワークショップには地域の住民の方々、町内会、長寿会、ボランティア活動者、病院関係者など様々な立場の方が参加されそれぞれの立場から見た「地域の良い所」と「地域の課題」が話し合われました。この話し合いを通して、自分たちの暮らす地域だけでなく他の地域がどんな問題を抱えているのか、そこに共通する課題は何かを共有することができました。



地域での話し合い（南・鍋蓋新田）

南・鍋蓋新田では「カフェ哲やろうかい!」と称して、地域の中の困りごとやイベントを住民自身で考えていく取り組みを始めました。この「カフェ哲やろうかい!」自体も、そもそも「地域のサロンに男性が出てこない」という課題の解決のために考えられたものでした。今では参加する方々が自分たちで「今あるもの」を調べ、「何が必要なのか」をみんなで話し合うという、「宝物探し」からその活用方法の探求へと進み、話し合いの土壌が形成されてきています。



サロン実践者のつどい

サロン実践者のつどいは、現在実際にサロン活動に取り組んでいる関係者の方たちが集まり、それぞれの取り組みの紹介やサロンの課題を議論します。話し合いを通して、それぞれのサロンが必要としている情報を交換したり、今まで気づけなかった活動の視点を得たりと、より地域のニーズに応えられる活動へと結びついていきます。

